

## 資料17

### 立場

- 院外研修先での研修医のいる場所がない
- 受け入れ態勢ができていない
- 研修医が作業する専用の場所がない
- 院外研修先での臨床研修医の立場は、その院外先の歯科医なのか、院外の歯科医師なのかを明確にしてほしい
- 衛生士の指導が少ない
- 各院の対応の違いに対する不満
- 研修医の病院での存在感のなさ
- 研修医が実際に治療できる機会が少なくなる
- 患者数の減少が問題
- 簡単な症例で短期間で終わるものでいいので、患者さんを担当させてもらいたい
- 患者さんに接する機会が少なかった
- 有床義歯では患者さんに接する機会が少なかった
- 1人でもいいから連続して見れる患者さんを担当させてほしい
- 各科においては研修医の扱いがお粗末な科もある
- 患者さんともっと接したい
- 患者さんに接することを修得する
- 患者さん1人を一つの単位として研修したい
- 各科によって研修医の扱い方が違う
- 治療計画の立案について説明してほしい。さらに参加させてほしい
- 開業医独自の工夫や良い点、悪い点を見ることができた
- 大学病院と開業医院との違いを肌で感じた
- 実際の臨床を行う上で有意義であった
- 施設に残る残らないに限らず均等に教えてもらいたい
- 各科指導医の先生方が親切で勉強になった
- 人間関係の複雑さ、医局の雰囲気に触れられた

### 出席

- 出席が適当すぎる
- 出席していなくても修了証が発行される

### お金

- 月4万円では少なすぎる
- 学費出資者に頼るか、バイトをするしかない
- 国立と私立のお金の差は何なのか
- 研修医のお金が国立と私立で違いすぎる
- 研修医の経済的保証を改善してほしい
- 給料が少ない

### その他

- どこまで研修医が踏み込んで診療していいのか
- 院外研修先が自分で決められなかった
- 研修先を研修医が決めたい
- 大学病院だからといって、何もかもが優れているとは思えなくなった
- 1年間学んだことで学生という意識はなくなり、歯科医師であるという自覚を持てるようになった
- 自分によく診療室に居たら、その科の先生が良く教えてくれるようになった。逆に言えば、来ないで都合のいいときだけ教えてもらうのは無理だ

## 日本歯科大学歯学部附属病院臨床研修医アンケート

平成11年3月25日施行

## 1.臨床研修全体

- 1)臨床研修に参加して 有意義 無意味
- 2)望ましい研修科選択数 1科 2科 3科 4科
- 3)各科適当な研修機関 1ヵ月 2ヵ月 3ヵ月 4ヵ月以上
- 4)特別講義 要 不要
- 5)要の場合:望ましい特別講義数 30回 40回 50回
- 6)特別講義の内容 良 普通 悪
- 7)特別講義の内容変更 要 不要
- 8)要の場合:新規の特別講義として ( )

## 2.診療

- 1)自分で診療したいかの意思 強 普通 弱
- 2)診療をしたい場所 研修医診療室 単科 院外施設
- 3)診療形態 指導医の支援 単独 研修医で助け合っ

## 3.院外研修関連

- 1)院外施設で研修して 有意義 無意味
- 2)望ましい院外研修回数 1回 2回 3回
- 3)適当な院外研修期間 2ヵ月 4ヵ月 6ヵ月 8ヵ月
- 4)施設の選択方法 委員会の指定 研修医の選択
- 5)必要と思われる施設の数 ( )施設
- 6)施設の研修時間 9-17時 各施設の時間

## 4.自分が行った院外研修機関について

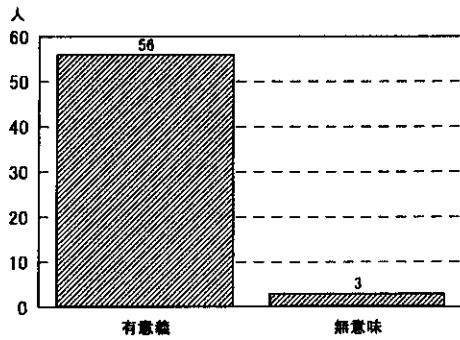
- 1)施設の設備 良 普通 悪
- 2)施設の質 良 普通 悪
- 3)施設の改善点 ( )
- 4)指導カリキュラム 良 普通 悪
- 5)指導医の質 良 普通 悪
- 6)指導医の改善点 ( )

## 5.アルバイト

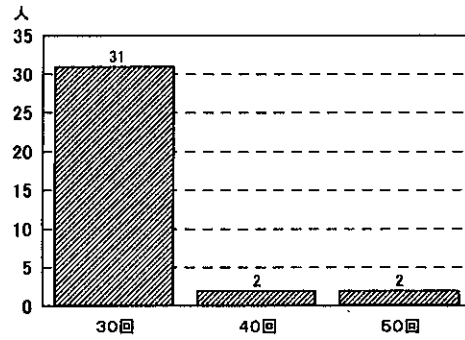
- 1)アルバイト 定期的に行った 時々 無
- 2)1回の実務時間 1時間 2時間 3時間 4時間
- 3)一週間に 1回 2回 3回 4回以上
- 4)収入(1ヵ月) 約( )円

資料19

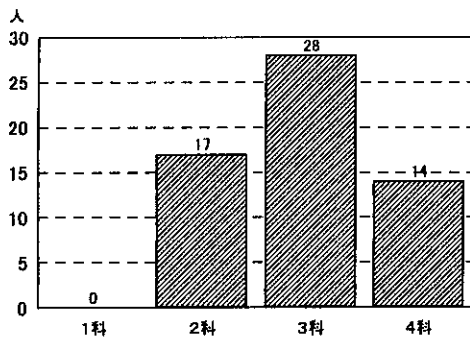
1-1) 臨床研修に参加して



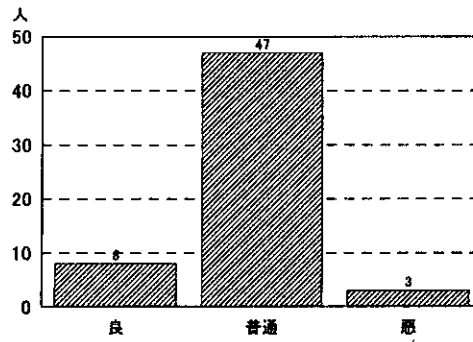
1-5) 望ましい特別講義数



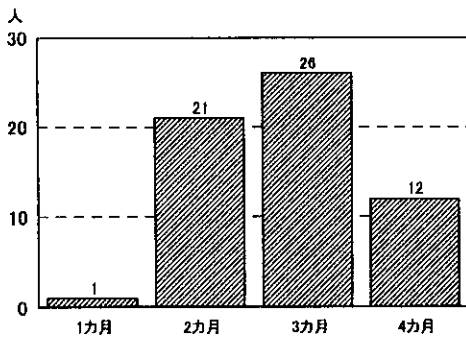
1-2) 望ましい研修科選択数



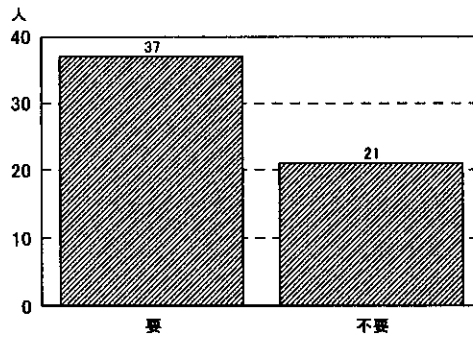
1-6) 特別講義の内容



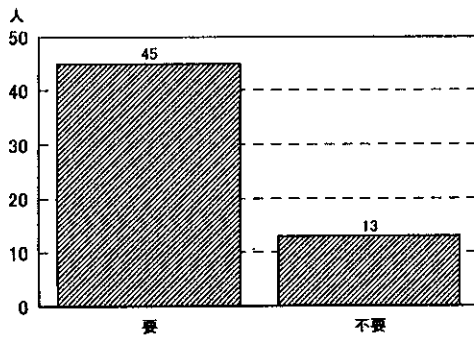
1-3) 各科適当な研修期間



1-7) 特別講義の内容変更

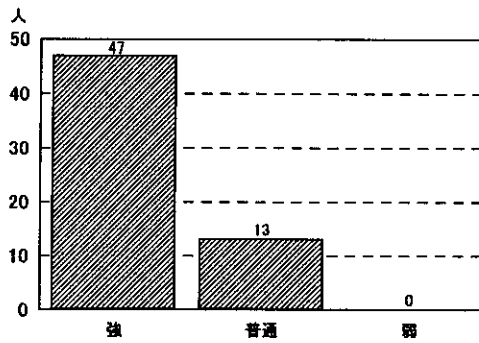


1-4) 特別講義

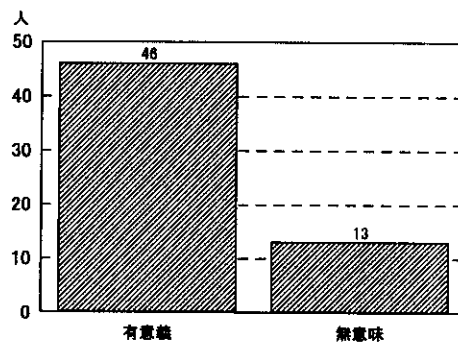


資料19

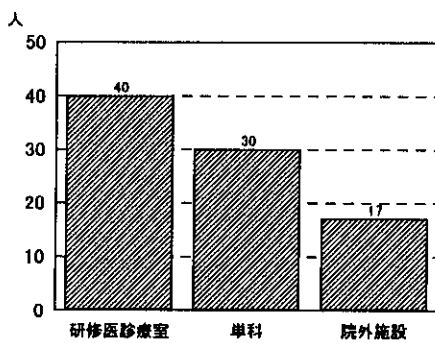
2-1) 自分で診療したいか的意思



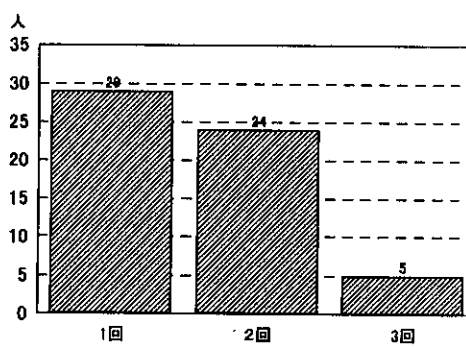
3-1) 院外施設で研修して



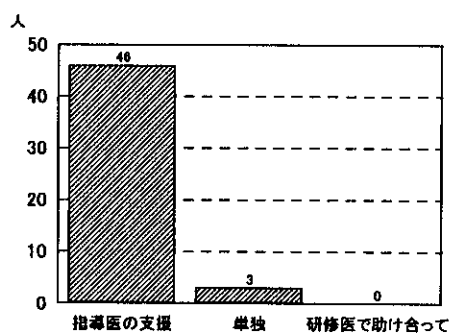
2-2) 診療をしたい場所



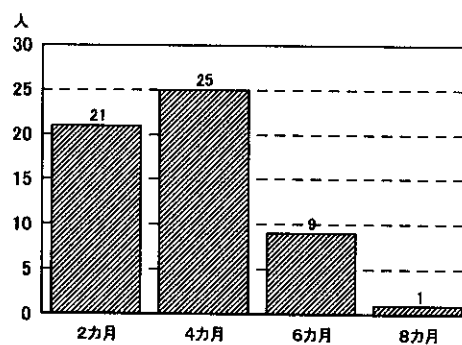
3-2) 望ましい院外研修回数



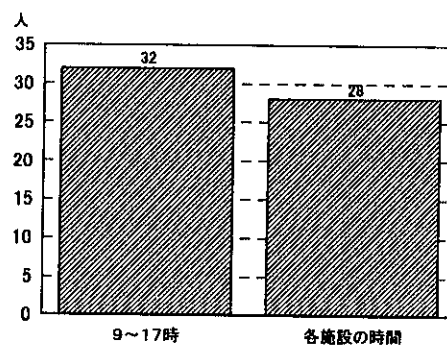
2-3) 診療形態



3-3) 適当な院外研修期間

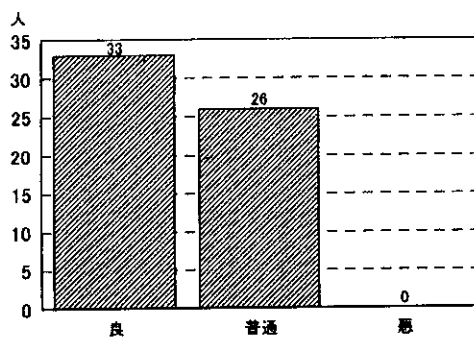


3-6) 施設の研修時間

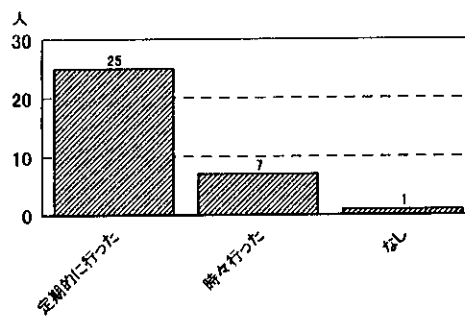


資料19

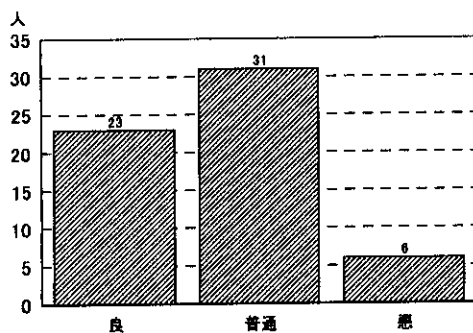
4-1) 施設の設備



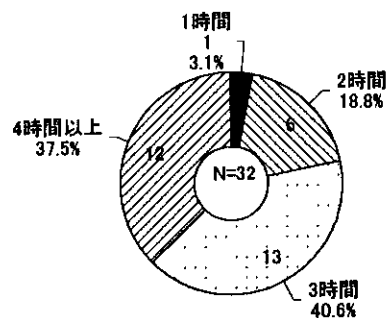
5-1) アルバイト



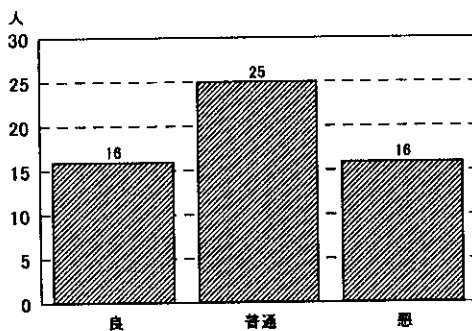
4-2) 施設の質



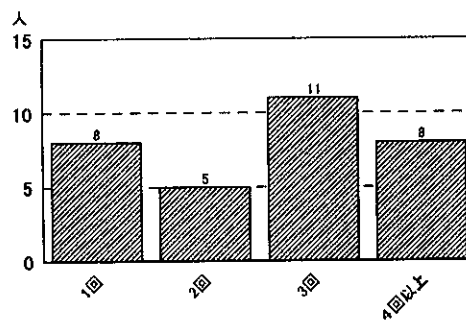
5-2) 1回の実務時間



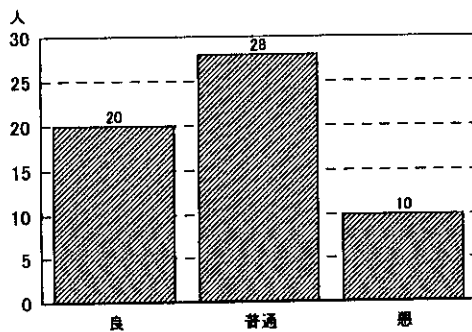
4-4) 指導カリキュラム



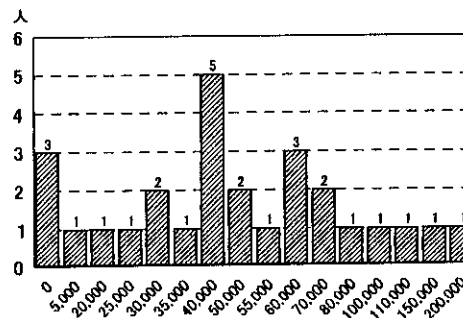
5-3) 1週間に何回



4-5) 指導医の質



5-4) 1か月の収入(円)



## 資料19

### 1-8)新規の特別講義として

- 保険やカルテについて
- 学生時と同じはいやです
- 他大学・外国からいらした先生のお話など
- 義歯・予防・歯科概論
- もっと実際の症例やスライドやビデオ、症例報告会のようなもの
- 学生中に聞けなかった話をききたかった
- 診断について
- GPに即したもの
- 学生時代と同じものは不要
- 最新の事項について臨床につながる内容
- ある特定のテーマを決めて、それについて何日かに分けて少し深く行う講義
- インプラント

### 4-3)施設の改善点

- 教育の環境をつくるべきだと思います
- 目的意識をもってもらいたい
- 研修医にまかせられた治療時間
- 医局が遠すぎる
- 歯科材料が少なかった
- 研修時間を明確に
- 指導医の対応
- 自分でもっと診療を行いたい

### 4-6)指導医の改善点

- こちらもとけこむ必要があると思う。とけこめばやらせてくれるようになります
- 責任をもって指導していただきたいです
- 意欲的になってほしい
- 手を抜くことが開業医のテクニックだと教えられた点
- 指導医が何をさせたらよいのかを理解していない
- 研修目標が明確になっておらず、研修先の先生たちもとまどっているようだ。主施設との連絡をもう少し密にとって欲しい
- 男女で指導医の指導の熱の入れ方に差がある。男の方がいろいろやらせてもらっていた
- 歩合制の歯科医院での研修はDr側にも余裕がないため研修医を受け入れる姿勢が見られないので無理があると思う
- 治療させてくれない指導医はいらない
- 簡単なカリキュラムがあったらよいかと思います
- 単位制にして欲しい
- 研修医の立場になって指導して欲しい
- 説明不足の点
- もっと教えて欲しかった
- 会話を多くしたい
- 歯科衛生士のアシストという形が多く、口腔内もあまりみることができなかつたので、せめて歯科衛生士レベルの研修を行いたかった

## 資料19

- あまりいろいろ教えてもらえなかった
- 手足のように使うのではなく、もっと教える気持ちをもって欲しい
- 出身校が違くと態度が悪い。無責任である。指導医としての自覚を持ってもらいたい
- 研修医をアシスタント以下の扱いをして、自分かって

資料20

検査項目	見学						実地					
	1		2		3		1		2		2	
	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												



資料20

処置項目			見学						実地					
			1		2		3		1		2		3	
			自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員
	1	フッ素塗布												
	2	予防充填												
除痛処置	3	薬物によるもの												
局所麻酔法	4	塗布麻酔												
	5	浸潤麻酔												
	6	罹患歯質の切削												
	7	単純窩洞の形成と修復操作												
歯髓の処置	8	保存療法												
	9	断髓法												
	10	抜髓法												
	11	簡単な感染												
	12	根管充填法												
歯周初期治療	13	歯石除去												
	14	根面滑沢化												
	15	簡単な暫間固定												
	16	歯周ポケット掻爬術												
抜歯	17	乳歯												
	18	永久歯												
口腔内消炎手術	19	小膿瘍切開												
	20	手術後処置												
歯冠修復処置	21	支台歯形成												
	22	修復操作												
固定式欠損補綴処置 (1歯欠損)	23	支台歯形成												
	24	補綴操作												
可撤式欠損補綴処置 (簡単で顎堤変化の少ない症例)	25	部分床義歯												
	26	全部床義歯の補綴操作												

資料20

			見学						実地					
			1		2		3		1		2		3	
処置項目			自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員
	27	補綴物破損												
局所麻酔	28	伝達麻酔												
	29	複雑窩洞												
	30	複雑な感染根管処置												
	31	外傷歯, 変色歯												
歯周初期治療	32	複雑な暫間固定												
	33	歯肉切除術												
	34	新付着術												
	35	FOP												
抜歯	36	乳臼歯												
口腔内消炎手術	37	歯肉弁切除												
	38	歯肉息肉除去手術												
	39	頬口唇舌小帯												
	40	歯槽骨整形手術												
	41	口腔内縫合処置												
さらに複雑な 歯冠補綴処置	42	転位歯支台歯形成												
	43	補綴操作												
さらに複雑な 欠損補綴処置	44	架工義歯支台歯形成												
	45	補綴操作												
(2~4歯欠損) (複雑な欠損補綴) (顎堤変化の 進んだ症例)	46	部分床義歯												
	47	全部床義歯												
	48	咬合誘導												
	49	矯正装置の操作												
	50	ショックの救急処置												
全身麻酔法	51	吸入麻酔												
	52	笑気吸入鎮静法												

資料20

処置項目			見学						実地					
			1		2		3		1		2		3	
			自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員	自己	医員
	53	静脈内鎮静法												
	54	咬合調整												
固定法	55	床固定												
	56	ナイトガード												
抜歯	57	困難な抜歯												
口腔内消炎処置	58	骨髄炎												
	59	顎骨骨髄炎												
口腔外消炎処置	60	消炎処置												
	61	頬口唇舌小帯												
	62	抜歯窩再掻爬術												
	63	歯根端切除術												
	64	歯根嚢胞摘出術												
	65	歯肉歯槽粘膜形成術												
	66	遊離歯肉移植術												
	67	歯根分離術												
	68	歯根切除術												
固定性欠損 補綴操作 (咬合関係が 不良な例)	69	支台歯形成												
	70	補綴操作												
可撤性欠損 補綴操作(咬合関 係不良, 顎堤変化 の著しい症例)	71	部分床義歯												
	72	全部床義歯												
	73	心身障害(児)												
	74	入院患者管理												



### 歯科医師臨床研修到達目標の評価

1. 到達目標の評価は、各評価表に従って研修指導医および研修医が以下の3段階で評価する。
2. 評価は、情動面の評価、臨床知識および実技の評価に分け行う。
3. 臨床実技評価は、理解度、達成度、ならびに習熟度をもって判断する。

- |   |
|---|
| <p>(A) 十分に達成した<br/>(B) ほぼ達成した<br/>(C) やや達成していない</p> |
|---|